

2022 4/12

No.2160

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



プロ野球の横浜DeNAベイスターズは3月25日、満員の横浜スタジアムで今季開幕戦に臨んだ。観客数3万2436人は球団史上最多。



contents

視点点描	
アスリート守るために	3

講演録	
ジャパンラグビーリーグワンが目指すもの ～ラグビーと企業経営の共通点 リーグワン理事長 玉塚 元一	4

経済双眼鏡	
激変の予兆 米ゼロ金利政策転換	7

デモクラシーの現場から	
憲法施行75年を前に動き始めた国会論議	8

国 際	
ウクライナを超える「新冷戦」 新「ハートランド」の戦い	10

国 際	
なぜ、今なのか ロシアのウクライナ侵略の狙いは	14

かながわTODAY	
3月の主な経済ニュース	18

事務局だより

◇2022年5月の見学会(視察)
5月27日(金) 午前10時～12時
日本初の高層純木造耐火建築物
場所：横浜市中区弁天町
※講演会の代わりに話題の施設見学会を企画しました。申し込みは4月28日まで(応募者多数の場合は抽選)。新型コロナウイルスの感染拡大の状況によって中止する場合があります。

【新規会員】(22年4月3日現在)

- ・三浦市(21年10月)
- ・株式会社ジャストオートリーシング(22年3月)
- ・公立大学法人横浜市立大学(22年4月)
- ・株式会社湘南営繕協会(同)
- ・株式会社横浜港国際流通センター(同)
- ・税理士法人コスモ・アソシエイツ(同)
- ・株式会社京急アドエンタープライズ(同)

【お知らせ】3月10日に理事会が開かれ、2022年度の事業計画案と予算案が承認されました。

視点 点描



アスリートを守るために

ここ数年、メンタルヘルス（心の健康）の不調を訴えるアスリートが後を絶たない。時に「超人」と形容されるスポーツ選手だが、傷つき、思い悩む一人の人間であることを忘れてはいないか。

テニス女子シングルスの大坂なおみ氏が昨年5月、精神的な負担を理由に四大大会の全仏オープン

の記者会見を拒否し、2回戦を棄権したことは記憶に新しい。先の東京夏季五輪でも、体操女子団体で3連覇を狙った米国のエース、シモン・バイルス氏が競技途中で演技を続けることを断念した。涙を浮かべ「以前のように自分を信じられない」と吐露する姿に心を痛めた方も多いと思う。

国際オリンピック委員会（IOC）によると、トップアスリートは強くなければならない、弱音は

の5割近くが睡眠障害に悩み、3割以上が不安や「うつ」の症状を抱えている。一方、日本ラグビー選手会は昨年1月、選手のメンタルヘルスに関する調査結果を公表。当時の国内最高峰リーグであるトップリーグ所属の251選手のうち、4割を超える106人が心の不調があると回答し、この割合が一般のデータより約1割高いことも明らかにした。

吐いてはいけない」という暗示のようなものが自分を追いつめたのかもしれない」とも語る。

会員制交流サイト（SNS）の発展で誰もが発信者になれる時代、スポーツ選手が誹謗中傷的になるケースも相次いでおり、ますますアスリートの尊厳が危ぶまれる状況だ。北京冬季五輪のノルディックスキージャンプ混合団体で失格となった高梨沙羅氏がSNSで悲痛な謝罪文を掲載したが、メディアも含めた過度な期待が異例の謝罪の背景にありはしないか。各競技団体は相談窓口を設けるなど支援体制の充実を急いでいるが、そもそも、われわれが変わらなければならないのだ。「苦しみを打ち明けやすい社会をつくっていききたい」。中村氏の言葉は核心を突いている。

（神奈川新聞社運動部長

下屋鋪 聡）